

高次脳の知識や対応法を学び、支援の輪を広げよう

高次脳機能障がい研究会



設立の背景

国の施策としてモデル事業が始まった平成13～18年、ようやく診断基準が定まり治療対象となりました。沖縄県内に支援拠点窓口設置されたのは平成19年です。

高次脳機能障がい者は全国で50万人以上（実数不明）、支援を必要とする方々が眼前に居ます。

しかし、実情は医療・福祉関係、教育現場でも高次脳機能障がいに関する知識や対応法が充分行き届いていません。

活動内容

- 高次脳機能障がいの基礎、画像
- 各種神経心理検査の解釈と要点
- 社会資源～就労、運転
- リハビリメニューと自主訓練
- 症例検討
- 啓蒙活動、学会発表

障がいを抱えながらもその人らしく生きられる支援が理想です

勉強会

高次脳機能障がいと自動車運転

日時	地域	場所
7月26日(水)19:00～20:30	北部	勝山病院
9月27日(水)19:00～20:30	南部	ソフィア（糸満市）

症例検討会 「行列の出来る症例相談所(仮)」

8月30日(水)19:00～20:30 沖縄リハビリテーションセンター病院
内容：①なつとく！画像の見かた ②症例検討会
講師：藤山二郎先生（神経内科医） 症例提示：玉城高信氏（宜野湾記念病院）



沖縄県高次脳機能障がい研究会
略称：HBD研
問い合わせ先
watanabe-k@ryukyu.ac.jp

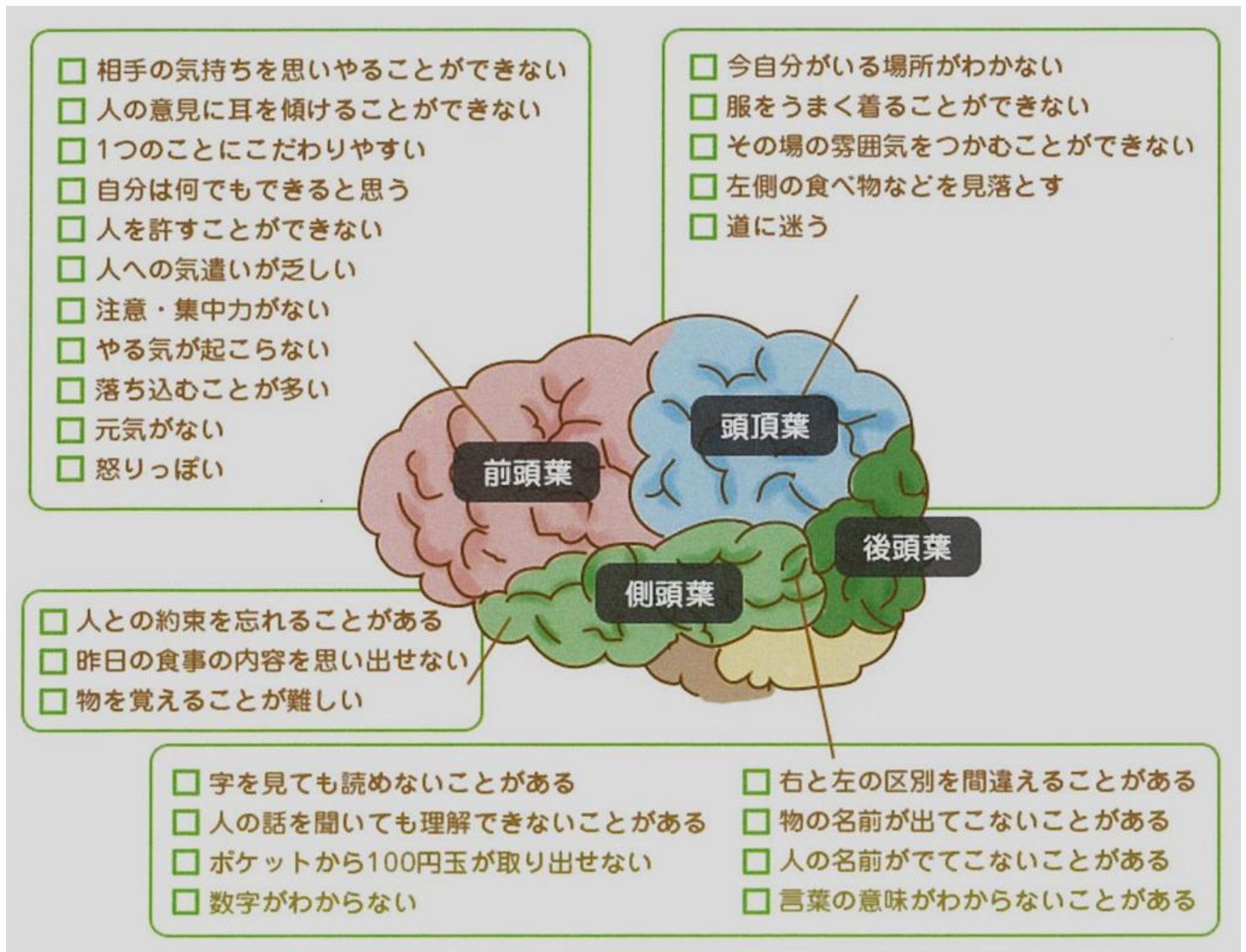
研究会メンバー

渡辺健一（代表者：琉球リハビリテーション学院）
安村勝也（沖縄リハビリテーションセンター病院）
阿嘉太志（沖縄リハビリテーションセンター病院）
石川正樹（沖縄リハビリテーションセンター病院）
森谷優希（沖縄リハビリテーションセンター病院）
松田淳志（沖縄リハビリテーションセンター病院）

高次脳機能障がい

脳血管障がい（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）や交通事故等による脳損傷が主因です。その他に脳腫瘍や脳炎、正常圧水頭症、低酸素脳症、てんかん等から発症することもあります。

脳機能の内、言語や記憶、注意、情緒といった認知機能に起こる障害を高次脳機能障がいと言います。注意散漫、易怒、記憶低下、計画性低下等の症状が出現することがあります。



小児の高次脳機能障がい

小児の高次脳機能障がいは急性脳症や頭部外傷、低酸素脳症、脳腫瘍、脳血管障害などが原因ですが、発達障害との鑑別が困難です。

- 友だちとの関係づくりが難しい
- 注意が続かない
- 思考の柔軟性に欠ける
- コミュニケーションが苦手
- 学習上の困難を抱えている
- 自己制御が苦手である
- 感覚の感受性が特別である
- 興味の偏りがある